

## 育苗日数、1ヶ月以内(20日~25日間)に!!

計画的な播種で、健苗育成に努めましょう。

### 【種子更新】

- ・種子は全量種子検査を受けたものに更新する。
- ・種子の品質保証票は保管しておく。

### 【種子消毒】

薬剤名	濃度 (水200mlあたり)	浸漬時間
テクリードCフロアブル	200倍 (100ml)	24時間

(注)消毒後の残液は、河川や用水路へ流さないで下さい。  
簡易廃液処理キット(イレートキット)をご使用下さい。

#### —薬剤吹き付け種子使用の注意事項—

- ・塩水選は行わない。
- ・浸種を開始して最初の3日間は、水を交換しない。
- ・種子消毒作業は不要で、浸種からスタートする。
- ・種子の取り扱いには、マスク、手袋などを着用する。

#### ・消毒液温は10℃以下にしない。

- ・種籾と消毒液の容量比は[1:1以上]の割合とする。
  - ・消毒した種籾は、食用や飼料に用いない。
  - ・種籾袋には余裕を持って種籾を入れ、攪拌し効果ムラをなくす。
- ※10℃以下で作業した場合、十分に消毒が行われない可能性があります

### 【浸種】 浸種の積算温度は120℃以上！

水温	浸種日数	注意事項
10℃	12日間	①初日の水温を10~15℃の適温に保つ。 ②2日に1回は水を入れ替え、籾の上下を入れ替える。 ③高温にしない(20℃以下)
15℃	8日間	

※もち類は浸種の積算温度を100℃で終了させる。

### 【催芽】

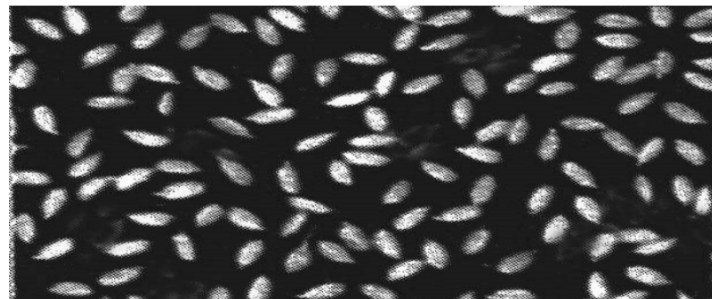
催芽適温	催芽程度	目安
30℃	1mm (ハト胸程度)	9割以上(発芽を揃える)

ハト胸程度  
(播種に最適)



### 【播種】 薄播きでガッチリ苗づくり！

1箱当たりの播種量	
乾籾重量	120g / 箱
催芽籾重量 (目安)	150g / 箱



120g/箱の播種状態

- ・播種時の灌水は1箱あたり800~1000mlとし、箱の底まで床土が湿った状態とする。
- ・青カビ、白カビ、苗立枯病の予防として、播種時(800ml)から緑化期(500ml)にダコレート水和剤500~1000倍液を灌注処理する。

### 【出芽】 一斉に芽をそろえよう！

出芽の程度	出芽日数	温度管理
芽の長さが8~10mm程度	3~4日	30℃

水稻育苗ハウスを活用して野菜を栽培する場合は、育苗箱施薬剤を処理しない苗を用いて下さい。  
また、田植前の施薬は育苗ハウス内で行わないで下さい。

コシヒカリの早播き、早植えは品質低下のもと。4月上旬に播種し、5月田植を実施しよう！

安全安心・きれいな米づくりを実践しよう！ 事故防止のため苗箱配送時に過積載とならないよう注意してください

詳しいことは、営農指導員にお尋ねください。

春先の機械作業時は過信せず、安全確認を十分に！

苗の品種区別をしっかりと行いましょう！

## 【育苗管理】

	温度管理	ハウス管理	水管理
緑化期	《日中》 20～25℃  《夜間》 15～20℃ 〔夜間の温度を高くすること。〕	【ハウス搬入後 3～4日】 緑化終了の目安は、芽が地際から2.5cm程度伸長した時期とする。 ・遮光や保温のためラブリットや寒冷紗で被覆する。 ・ <b>夜間は被覆資材の二重掛け等により保温に努める。</b> ・高温にならないよう晴天時は換気に努める。 ・日中に換気のためハウスを開けた場合、夜温確保のため午後3時頃までに閉めること。 ・ <b>ゆめみづほは2日程度被覆期間を長くする。</b>	・緑化期間中の灌水は、覆土の持ち上がりがある場合と箱のスミが白く乾いた時だけとし、過湿に注意する。  ・灌水が必要な場合は晴天の早朝とし、低温時や夕方には行わない。
葉ヤケに注意(ハウスのビニールを新しくした場合は特に注意)			
硬化前期	《日中》 20℃前後 《夜間》 10℃以上	【ハウス搬入後 5～9日】 ・高温にならないよう、ハウスの開閉はこまめに行う。 ・日中は、被覆資材は使用しないこと。 ・夜間及び低温時は被覆資材等で保温する。	・灌水は午前10時頃までに行う。  ・曇雨天時は土の乾き具合を見て判断すること。
硬化中期	《日中》 15～20℃ 《夜間》 10℃以上	【ハウス搬入後 10～15日】 ・温度管理は低めとし、徐々に外気温にならす。 ・霜等に注意し、低温時は被覆資材で保温する。	・灌水は朝方、ゆっくり時間をかけてムラにならないよう行う。(灌水ムラは生育ムラの原因になります。)  ・ハウスの換気により、床土が乾きやすいため、晴天の日は朝昼2回の灌水が必要な場合があるので注意する。
硬化後期	外気温にならす	【田植え前 8～10日】 ・日中はハウスのビニールを大きくめくり、温度が上がりすぎる時はハウスの腰部も開ける。 ・田植え4～5日前からは夜間も換気する。 ・霜に注意し、極端に冷え込む日は、日中早めにハウスを閉め、場合によっては被覆する。	・育苗期間が30日を超える場合や葉色が薄い場合には、田植え3日前に追肥を行う。 <b>【追肥法】</b> 液肥10号の200倍液(水10ℓに50ml)を1箱当たり500ml灌注し葉焼け防止のため軽く灌水する。

## 【カビ及び病害対策】

カビの種類	薬剤名	使用時期	処理方法
青カビ・白カビ	ダコレート水和剤	播種時から緑化期 但し播種14日後まで	500倍液(水10ℓに20g)を1箱当たり500ml灌注する。 総使用回数:2回以内
赤カビ	タチガレエースM液剤	発芽後	500倍液(水10ℓに20ml)を1箱当たり500ml灌注する。 総使用回数:1回以内

※ムレ苗が発生したら、早急にタチガレエースM液剤を灌注し、葉からの蒸散を抑えるために寒冷紗で遮光する。

**良質米は『土づくり肥料』の施用から!!**

基肥一発肥料を使用する場合は、水稻の生育に不可欠なリン酸・加里が不足しますので、土づくりや中間追肥を必ず施用しましょう。

土づくりにより、品質、食味の向上と収量の安定化に努めましょう!!

